

「タイ・チュラロンコーン大学サマースクール参加報告書」

京都大学農学部3年 米田実紀

タイのチュラロンコーン大学で行われた今回のサマースクールでは、主に3つの内容について学びました。

1つ目は、今回のサマースクールでメインともなっているタイ語の講座です。今回のサマースクールに参加した私たち5人はみんな今までにタイ語を学んだことがありませんでしたが、主にアルファベットを用いて発音などを確認しながら会話を重視した授業を受けることができ、最終的には5分程度の会話のキャッチボールを行えるような段階まで成長することができました。

2つ目としては、文化講義です。私たちだけで行われた授業もあればタイ人学生や他の大学から来ている留学生と混じって授業を受けることもできました。文化講義を通して、タイの歴史や現在にも続いている文化や考え方など、タイという国を深く知ったり、イメージを形成するために必要な知識を手に入れることができただけではなく、質問などを交えながら現在タイ人が国に抱いている感情はどのようなものかなど現在に繋がるものを学ぶことができました。

最後の内容は、タイ人学生との発表です。タイに出発する1か月前ぐらいから日本人のメンバーでそれぞれ日本語を学んでいるタイ人学生達とグループを組み、どのようなテーマについて発表したいかを決め、実際にタイに到着していた後に直接グループそれぞれで授業外の放課後や昼休みの時間などを通して議論をしたりタイ人ならではの発想を盛り込みながら、最終的にグループ毎に約20分の発表を行いました。発表テーマは、私たちにとっても難しいような内容で、このようなテーマをタイ人の学生と話すことができるのかと危惧していましたが、結果的にはそれぞれ問題なく発表が進められているばかりか、それぞれのグループにおいて上手く役割分担が行われており面白い発表にすることができました。その中でSENDプログラムの目標でもある日本を再発見するという課題もそれぞれ多く発見があったと思います。

加えて、特に2週間のサマースクールを充実させたものは、チュラロンコーン大学の学生との交流です。発表を一緒に行った日本語学科の学生だけではなく、他学科、他学部の学生の中にも日本語を話すことができ、私たちと交流したいと思ってくれた学生たちが授業後や週末など様々な計画などを立ててくれて、1日として充実することのない日はなく、毎日楽しく過ごすことができました。

最後にこのプログラムを通して、元々タイという国が大好きで旅行やインターンシップを含めて何度もタイを訪れたことがあります。上記のような充実した授業や生活の中でタイを知ることができ、より一層タイという国の面白さを身を感じるすることができました。タイという国、特にバンコクの街を歩いていると人々のパワフルさを感じ、日本が今失っていったような人々の距離感とか生活そのものをいつも気づかされるように思います。そのような前向きに進んでいるタイに負けることなく、日本という国も成長する必要がある、そのように両国が上手く関係をこれかも結ぶことができ、発展することができる部分で自分も将来的に関わっていきたくて日々感じています。